

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670801125
法人名	株式会社 ふれんど
事業所名	グループホームふれんど
訪問調査日	平成 20 年 12 月 11 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 4 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	670801125		
法人名	株式会社 ふれんど		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地 (電話番号)	山形県酒田市古湊町9番8号 (電 話) 0234-35-1210		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成21年2月4日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	15, 4人

(2)建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>		<u>新築</u> /改築
建物構造	木造 造り		
	1階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 82 歳	最低 70 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岡田内科循環器科クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「一人ひとりの希望に添った日常生活のお手伝い」としての支援に取り組んでおり、大まかな日課はあるものの、利用者のその日、その日の気分、体調、希望に合わせた臨機応変な対応が行われています。 また、併設されている通所介護事業所の「桜風呂」での入浴、家族が気軽に話し合える場にもなる「家族会」の設立など、利用者の生活の質を更に高め、支えていくことにも取り組まれています。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念について話し合ったが、「地域密着型サービスとしての役割も目指す内容」を加えるまでには至らず、前回同様「ひとりひとりの希望に添った日常生活のお手伝いをいたします。1. 毎日の入浴に努めます。2. 一緒に家事をします。3. 趣味や余暇時間、食事を一緒にします。」という開設時からの理念となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目③	管理者と計画作成担当者等が記入した内容について職員にも意見を求め、意見を出し合いながら、自己評価票が作り上げられている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目④	運営推進会議は利用者、家族、自治会長、市担当者の参加により、2ヶ月ごとに開催されており、会議で出された「行事についての意見」等を取り入れながら、利用者サービスの質の向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目⑤	面会時に家族が気軽に意見や要望を伝えられるようになっており、家族から出された意見をもとに、「窓のサッシを二重にする」取り組みなどが行われている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	夏祭り、敬老会、正月行事などで地域との交流が図られており、また、自治会への加入、幼稚園の園児や子供会による訪問も行われている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念について話し合ったが、「地域密着型サービスとしての役割も目指す内容」を加えるまでには至らず、前回同様「ひとりひとりの希望に添った日常生活のお手伝いをいたします。1. 毎日の入浴に努めます。2. 一緒に家事をします。3. 趣味や余暇時間、食事を一緒にします。」という開設時からの理念となっている。	○	開設時からの理念だけでなく、地域密着型サービスとしての役割を目指す内容も加えていく取り組みが引き続き期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在ある理念については職員間で共有されており、その実践に向けて日常的に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、敬老会、正月行事などで地域との交流が図られており、また、自治会への加入、幼稚園の園児や子供会による訪問も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と計画作成担当者等が記入した内容について職員にも意見を求め、意見を出し合いながら、自己評価票が作り上げられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、自治会長、市担当者の参加により、2ヶ月ごとに開催されており、会議で出された「行事についての意見」等を取り入れながら、利用者サービスの質の向上に取り組んでいる。		

山形県 グループホームふれんど

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の会議への参加、困難ケースの相談、調査等の資料の問合せなど、市の担当者と連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の一人ひとりの生活の様子や行事予定等を記入したものが、それぞれの家族に毎月送られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族が気軽に意見や要望を伝えられるようになっており、家族から出された意見をもとに、「窓のサッシを二重にする」取り組みなどが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員がユニット間を行き来することにより、日常的に馴染みの関係ができるようにしている。また、新任職員がいる場合、人員配置を一定期間多くし、利用者へのダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づき、職員が段階に応じて外部研修(年6回)や内部研修(年2回)を受けており、職員を育てる取り組みが進められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の会議での話し合い、電話での個別相談などにより、同業者との交流を通じた向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの味付けや調理の仕方、また、畑仕事など、入居者と職員がともに行いながら過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの様子や家族の話をもとにして、利用者一人ひとりの希望や意向を把握している。また、困難な場合でも生活歴や関係者からの話も考慮し、本人らしく生活できるよう本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向等を把握した上で、利用者ごとの担当職員と計画作成担当者等で課題分析を行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の毎月の評価や6ヶ月ごとの見直しが行われており、それぞれの状況に応じた計画になるように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人や家族らの希望を確かめて、かかりつけ医を決め ている。また、希望があれば、できる限りホームの看護 師が付き添い通院できるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	ホームとしての方針を決めて、利用者、家族、かかりつ け医とも話し合いを持ち、方針の内容を共有して対応す るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者それぞれの自尊心に配慮した言葉がけが行わ れている。また、個人の記録等については、利用者や 来訪者の目の届かない場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく、利用者の希望や心身の状況 をみながら、一人ひとりが過ごすことができるように支援 されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれに役割を持ってもらいながら、職員とともに準備や後片付けなどを一緒に行っており、テレビや会話を楽しみながらの食事風景になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合ではなく、利用者の希望に応じて入浴できている。また、ホームの浴槽だけではなく、併設されている通所介護事業所の「桧風呂」で入浴することもできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの「できること」や「好みのもの」が把握されており、畑仕事、編み物、書道などを楽しめるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望、天候、心身の状況を考慮した外出が支援されており、散歩、温泉、ラーメン屋や回転ずし店などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関にあるセンサーの利用や玄関が見える場所での職員の見守りが行われており、鍵はかけずに過ごせるように支援されている。また、身体拘束についての話合いが、職員間で行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した訓練(避難訓練、消火器取り扱い訓練、職員召集訓練)が、年に2回、消防署員立会いのもとで実施されている。	○	現在の取り組みに加え、夜間の災害発生を想定した訓練の実施や近隣住民の協力がより得られる体制づくりの具体化についても期待される。

山形県 グループホームふれんど

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれに合わせた「お粥」「刻み食」「ゼリー」などの提供により、スムーズに食事を摂取できるように配慮されている。また、栄養士の資格をもつ職員が立てた献立による、栄養バランスの良い食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾や行事での写真を飾ることにより、季節感のある楽しい雰囲気の中で過ごすことができるようにしている。また、温湿度計も設置されており、快適な室温となるよう調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、ベット、テレビ、机、タンスなどが持ち込まれており、また、家族や行事の写真を飾り、その人らしく居心地良く過ごせる部屋となっている。		